

# 山王病院・山王バースセンターにおける無痛分娩看護マニュアル

## I. 目的

硬膜外麻酔によって分娩時の産痛を和らげ、分娩の進行を図る。

## II. 必要物品の準備

### 1. 薬品・物品

- ・1%キシロカインシリンジ、生理食塩水 20ml
- ・局所麻酔カスタムパック(硬膜外麻酔用)他、CADD ポンプ
- ・母児モニタリング器材

### 2. 準備の方法

- ・麻酔科医師が患者の病室にて局所麻酔カスタムパック(硬膜外麻酔用)を清潔操作で開く。
- ・救急カートを自室前及び LDR に配置する。

### 3. 硬膜外麻酔薬(薬剤のミキシング・接続は医師が行う。)

- ・アナペイン、フェンタニル

## III. 手順

### 1. 入院時の対応

- ・麻酔承諾書と麻酔・手術のための質問書を確認する。
- ・食事箋の入力オーダー(硬膜外麻酔分娩当日の朝から昼食までを禁食にする。)

### 2. 硬膜外カテーテル挿入前の準備

- ・分娩着と産褥ショーツに着替え、トイレを済ませる。(ショーツ以外の下着は着けない。)
- ・胎児モニタリングにて、胎児心拍レベル判読が 1 であることを確認する。
- ・バイタルサインを測定し、心電図モニター・経皮的酸素モニターを装着する。
- ・静脈ラインを確保する。

### 3. 硬膜外カテーテル挿入時の介助

- ・体位の確保
- ・カテーテル留置時の介助(※感染予防対策は厳重に実施)

### 4. 硬膜外麻酔開始後の観察

- ・硬膜外麻酔注入後 20 分間は患者の元から離れない。
- ・硬膜外麻酔注入後の血圧・脈拍は初期には頻回に測定し、それ以降、麻酔持続投与中は 30 分毎に測定する。
- ・体温は、1～2 時間毎に測定する。
- ・麻酔使用時は、原則、心電図、経皮的酸素モニターは連続モニタリングとする。
- ・分娩第一期は 30 分～1 時間毎に疼痛軽減の程度、薬効の評価を行う。

- ・カテーテル挿入部の出血の有無やテープ剥がれがないことを確認する。
- ・30分ごとに胎児心拍レベルの評価を行い、分娩終了までは持続モニタリングする。
- ・3時間毎を目安に導尿を行う。

#### IV. 副作用と医師への報告

- ・硬膜外麻酔薬注入後は毎回副作用の観察を行う。

#### V. 分娩後の対応

- ・硬膜外麻酔カテーテル抜去は、医師が行う。(先端が切れていないことを確認する)
- ・帰室時はストレッチャーにて移動する。
- ・初回歩行・食事は最終麻酔投与から2時間後から開始とする。
- ・フェンタニルの空アンプルは麻薬処方箋と共に薬剤部へ返納する。
- ・麻酔に伴うトラブルの可能性を十分に理解する。
- ・麻酔により下肢の動きが鈍くなっていることがあるため事故防止に努める。

2025.3.21